



近世说美女年録

七編
二



13
3567
32



門 13
號 3557
卷 32

新編玉石童子訓卷之十七

東都 曲亭主人口授編次



第四十七回

七鹿山の厄小翠少年禍福を異む
千仞の谷の中小神靈新音を出現せ

重説大江杜四郎成勝。峯張栄六郎通能。無名山又七鹿山の巔を
凌ぎて来ぬ。若黨奴隸。字六可平。号を俟んと。土地の茅社の頭小權
且憩ひ居る程。小突然と。来て暴来ぬ。正小両箇の矢傷野猪。其形容
積小考。一くて駈んと。狂ふ勁猛。小當る。ぐもあ。されば。吐嗟と。左右へ
別避て。寄ら。刺んと。身構。する。程。一もあ。さ。前向。る。敏。系。記。樹。拉。の
蔭。より。一。と。彈。と。射。出。る。二。條。の。獵。箭。小。野。猪。へ。甲。乙。共。小。窮。所。を
毘。深。く。射。串。れて。四。足。を。張。て。ぞ。斃。れ。ける。成。勝。通。能。へ。思。ひ。け

玉石童子訓卷之十七

曲亭主人

早稲田 大學 図書館
昭和 34.6.3 欠
藏 書

るに光景ありさまは是これはいつのふとむりふ其方そのまへを乞まがとうち見みる件くだりの樹蔭とかげの
 両箇ふたつの武士ぶしあり俱ともに吟ぎんむる聲こゑ朗らう小こ
 山の幸雄さきをと小逢あひふけかも萬葉集まんやふしの巻まきの末すえの
 前まへより這里こゝに在あり出いて意裏いりを告つげんと呼よびの徐まぢぢ立た頭あれり近ちか
 つた来きぬるをと見みれば是これは別人べにんありと佐々木家ささきけの近習まじなひありけり長橋ながはし俊太郎しゅんたろう
 勢せう泰象たいさう船ふね兼かね弥や知量ちりやう是これは怎いかん生なま打うち扮はせ但たゞ見み身みの鞋くつ肚はら甲かぶ手て脛すね衣え長なが總そう
 垂たる鏝くすり衣えの上うへ段々だんだん筋すぢの夾はさ衣えの裳もも短たるを被か下くだしり腰こしのく奇物きぶつ作つくの両ふた
 刀やいばを跨またへて背せに駝た倣なまを就つ鳥とりの羽はの獵あ前まへも亦また是これ一對いっとうの各おの重おも藤ふじの弓ゆみ小関せき
 強張つとむるを杖つゑと頭かぶに戴かく絞しぼ蘭らん並なら重おも裡うちの戰いくさ鞋くつの締し附つの紐ひもも夏なつ挽ひの
 麻あさより直ただに纏まと義ぎ心こゝろ列り々々奈須なすの條ぢょう原はら獨ひとり銷しょうしる那かの三さん双ふたふあしさりや
 富士ふじの御狩みかり小寛家こくわんけを撃うちつる曾そ我が兄弟あに弟いの後のち身み歎なげと思おもふ可べの両ふた少せう年ねん

這山このやま中ちゆう小聚せうひて有あ斯かる資助すけふありけを神かみありぬ身みの知しるまりも
 るに成勝なりかつと通能とうのうの疑うたがひの霧きりいまま雲くもねね共とも侶り小聲こゑをうけて思おもひひにやり両
 賢物けんぶつ這里こゝに對面たいめんをととと故ゆゑととああののふふぞぞややと問とへ勢せう泰たい知ち
 量りやうの含くわ笑わらああ俱ともにいららううししのの已い入いるるああぬぬ秘ひ密みつのの話わ説せつ是これははれれどど
 世よにに憚おそりのの閑ひまひひのの人ひと迹あと稀まるる山やま路ぢありとと這頭こゝらのの樵しやう夫ぶ旅りよ客きやくのの過とるる者もの
 ああととままぐぐをを這方こゝらへへ来きませせと先まにに立たちちてて件くだりのの身み社ぢやのの背せのの樹き下したにに退ひくく
 各おの株かぶ小尻こしりをを掛かへへ開あかか中ちゆうにに成勝なりかつ通能とうのうのの勢せう泰たい等どうのの向むかひひてて料りやうららをを野
 緒いとをを射やりり燒やされれ飲のみみをを漬ひままくくままるるをを知量ちりやう急いそにに推お禁しめててななよよ両ふた呵あ々あ目め
 今いま火か急いそのの密みつ話わありり他た談だんのの要ようありり先まにに听きめめとといいふふ勢せう泰たい聲こゑをを低ひめてて和
 君きみ等らのの悟さとむむをを我われ們ら今いま朝あよりり這里こゝにに在ありりとと和わ君きみ等らのの過とるるをを俟まちしし
 野の緒いとをを射やるるにに為なるるをを守まもるるのの密みつ意いを受うけけるるにに人ひと小こ知ちらせせむむをを遠とほ

や
 箭ふかけん為多りた。といふ呆ろ成勝通能憶をも面を注して沈吟とる。と
 半响許思難く俱のふら。言疑ふあわねども。我們犯せる罪あつと然
 るを亦何卒の故小憎地誅せと宣りせ。守の御意あそつらひられね
 別又四身等君命を養ふ。我們を射て仆させ反て両箇の暴野緒
 を箭頭ふひし甚麼とや。と詰れば勢衆四下を見かへり。然ればとよ。其
 るうれ約莫這回の歎危の一朝のよとあわつと去歳の九月十五日衆
 少半の試撃の折四身等。両箇の弓馬槍法彼未朱之々。小十倍せる。
 本事を我君賞感のあま。高禄をのて當家小留りてのそ家臣小
 做さんとしてみづろ懇命あり。時四身等固く辭ひまると留るべくもあ
 らざりけし。六守のさうや思絶て重て御沙汰あり。小近習第一の
 壁臣の曾根見五郎平宗玄の能を忌才を婿と已小優れを飲ハ

ぶる。奸佞利口の癖あれ。惜地小守小稟をの。彼大江杜四郎峰張は
 六兩少半の必是隣國の間者小よそのの。其故の君今他等小大禄を食
 ちりて留りま。欲しあを固く辭ひま。心小物あれ。目今惜地
 小斬て棄て禍根を断る。と御後悔のやいと。真実を叫ば稟せ。守
 小半信半疑して沈吟とる。宣らふ。汝の先見故あるは。あつと。正
 した照据を注せ。と叨小他等を誅し。石見小怒む。川民並て我疎
 忽を諷るもあつ。隣國の為小。笑れん誅戮のひの急ぐべから。とよの
 美ハ汝小任ん。他等猶あ。地小あ。陽小親。交りて密々小心を屬
 よ他等果して隣國の間者て。照据あ。其折小。誅せ。べ。は。く。せ。よ
 かし。と課され。宗玄ハ忻然と兼りて。退さ。是等の秘密を始より。
 知れる。咱等と筆跡の。と。小。知量其語を次て。然る程小和君等ハ

刀子紛失の故を以て逗留久くする。隨小又彼曾根見宗玄の我兵
 侶小高嶋許交加て和殿等の隙を窺ふ小證據とせたり。もつ
 發足近記小ありと。彼一が他其言の錯をを朽惜くや思ひけん。
 君命と詭りて時々の鮮を贈りし毒を飼し。ゆとあむ。然れ
 ぬや和殿等の食傷の病厄あり。命も危ふりける。幸ふく死小至らど。當
 春瘧り果一が宗玄の猶懲をま小鏡婦巨謀の身を借て大江主を結果
 けんと拙く計較す。ゆりて彼拘杞村の巨謀の情地小多。錢を取て味誘
 たりけ。巨謀は是小執馮たて大江主を冤家と。然そ相敵ま。欲志
 一。小曾根見が拙策行と。巨謀の反て狂乱して許多人小傷け。か彼
 身の當日拘杞村ある。莊客們小撃殺され和殿等の異る。俱小初
 警の祝義を果して他御へ立去り。ゆその其美を早く。知りたる宗玄弥

媚く思ひて猶悪心を改め。説して守小稟を。曩も。彼えま。り。如
 被杜四郎采六と敵の間者小疑ひ。然。故小彼奴等の君の御懇
 命を辨ひ。久く。ま。立去ら。ど。去歳の冬。杜四郎の刀子紛失。小假
 托て夜々城外へ立去。地理要害を撈ん。為。その折。毎小石見。小生
 案内小立。め。と。情地小臣小告る者あり。然。り。石見。小隣國へ内
 応の。ある。飲。是。亦。知。る。へ。か。て。今。茲。の。春。小。至。り。て。杜。四。郎。采
 六。と。屢。近。郊。へ。立。出。て。故。も。あ。り。莊。客。毎。小。物。を。多。く。取。る。と。い。え。し。り。
 是。も。亦。所。以。あ。る。へ。小。介。小。昨。日。臣。が。腹。心。の。者。越。前。より。か。り。来。て。那
 里。の。消。息。を。告。る。小。より。思。合。せ。父。が。彼。杜。四。郎。采。六。と。朝。倉。家。の。近。習
 也。其。性。伶。利。記。の。ま。武。藝。も。人。小。勝。れ。られ。俱。小。間。者。小。立。ら。れ。て。
 當。國。小。来。て。八。九。个。月。御。方。の。強。弱。地。理。難。易。を。密。々。小。撈。者。之。然。れ。ば

おとわれ彼奴等ハ明日當國を立去りて越前へゆくとのめくめわらざ
 還るに倘這時を襲ひて彼等を放ち遣りぬらば後大なる患を致さん彼等
 が封疆をどぶる間より箭を勝れし近臣に課て途に埋伏をきて射て
 捕せぬべし御後悔もあらんとの美を思召れをよと叫び真を便佞
 利口守り竟に説惑されて驚たぬ大かゝるを汝の忠告其意を
 ばり何人を討ち遣さばとそその人を擇むる程に憶をも彼餘殃
 遂に我身及及びぬと告げ勢泰も俱ぬる彼宗玄が非美の伎倆をよ
 知れぬ稀るんぬ唱等と等弥に始より彼が肺肝を撈りぬる亦是故ある
 予亦曾根見の浮屠の小人なり能を忌才を媚と人を損ふべし者あれども
 彼が女兄ある窓井の方の守の年来愛ふ隨一の嬖妾ありんば宗玄も亦出
 頭して言聽れぬもの者ありぬを是始より彼が和殿等両才子の人小

勝利を忌嫌ふ其機を早く猜ちかば後竟に蓄害を醸さるゝもあら
 ん欵と思へば等弥と謀令て陽に彼と同意の如く萬事隔るゝもの
 せしが宗玄をさか心寛く機密を叫く折もあればその大畧を知り足
 れども毒殺のり巨謀のり只我々が推量の正可小波するものぬ小開
 を和殿等小云と叫び告んぬさかゆら苦く思ひ小幸小免れ
 のひら寔小自他の飲び然るを昨日思ひひら我君の御意とて臣
 と等弥を閑室小召よせて課をさりあり且宣ふらば彼大江杜四郎
 峯張染六郎ハ明日の早開小當所を去りて越前へ還るとなり彼等ハ朝
 倉の間者也當國の強弱を撈るべし為と正可小告る者ありんば捕
 捕せて誅するもけしあぬるもの然して又隣國小怨を結ぶ
 小似て妙るも只其去向小埋伏して射て殺す小まくるも彼等ら七

鹿山をうち踰て越路へ還る。慥小宮ぬ彼山ゆの木立多うり一人是を守
 る時ハ萬夫の找まがうといふ蜀の棧道小まを及ぶる進退不便の切
 所多うり汝等其頭小埋伏して彼等來ぬを俟まふ是究竟の地
 方多うべ目今この美を課せん者汝等兩箇を除くの外又ありて
 もちわえを勉めよ。懋めよ。亦他事も多う仰ける思ひかけらるる
 られば美弥も俱小胸を潰して答言せん所を知らむ彼宗玄が証言る
 りてもあるは多う。和殿等ハ我小父ある石見ぬの師と一憑一峯張
 叟の外孫あり二郎とハ已等も豫言知る所を出處來歴分明なれば
 美を見小びえ上て諫をらむと思ひかむ守ハ既小佞人小説惑るれ
 のひたる。痼疾膏言小入り一ハ良藥諫言兩あふ。いふと聴るべ況
 我們ハ弱冠之身の程を一も揣らざして虚実を直解んとて及て不測の

罪をば事小益るにのをも必亦別人小課せ和殿等を射るの
 只然氣あり美まうて情地小救ふ小まうとあう。と立地小深念ある
 雖も美弥小目を注して事情をばさむ。俱小額衝て票をや。脚説
 かこころも兼りひぬ彼杜四郎染六郎等の事の虚実ハ知らざらとも
 何て小尊意小背くべ。明日倘小鐵小血らむ徒小還りひ。と美
 脚心安るべ。と齊一応票ま。か。我君欣然と領たのひて然も
 あそあらしめ人のや知らん。疾々立後といそが。あへ。射て脚前を退
 出ふた。といふ言葉の數敏露の情ハ一對ある。知量も亦嗟嘆して
 夏の難美小我門ハ密談しても蒼柴のあるをり。益あるも非如君
 命あれば。罪も多う怨もあ。良友知音の和殿等を射て殺るべ。弓前
 へ。所詮彼山小俟着て密議を告て救ふ小まう。と稍商量を果る。

今朝より這頭小侯より甲斐小料らぞも矢傷野猪二頭を射て斃去
 しの昨日守小誓ひ稟まへ正小鐵小坂の美小福ふを一奇とのまの
 嘗てさ。その山あり老る大鹿七頭あり。あをのて主人無名山の和訓小より
 て七鹿山小作るもあへん鹿を志と唱るより免道の鹿飛の例小由の
 其鹿へ人を害せよ又這山小暴野猪多り開ち究りて怖る。一。豫め
 違ふたを解を勢泰推禁れ他談要す。時息移らんよ大江主峯張
 生益く這山を下り果て討まの征前を免れぬやととく。いそがなる鬼神
 不測の一椿事小成勝と通能のびく。毎小駭嘆く。呆る者半晌許愀
 然とて俱小のあう。お小覚るに枉津日ハ何等の神の祟を。尙和君
 達微りせ。我們両箇の白骨ハ豺狼小。も喫残されて這頭の草を肥
 さえの。昨ハ文武の詞友より。今ハ命の親と。も仰ぐ小猶餘りある。供

恩徳美ハ千萬言もて謝るとも盡さず。願ふ異日再會して報恩の時
 を俟ん。今ハ餘談小暇す。然れ教小從ふて早く這山をち踏て他領へ
 走らば安かり。え猶心許る。信のの上。非除鐵小坂り。も。も。己等の
 首をの捕ら。徒小還り。ま。り。罪。は。か。り。所。為。あ。る。と。主。僕。齊。一
 陪向ふを勢泰知量。あ。を。其。美。も。豫。商。量。ま。す。我。們。這。里。上。り。か。へ。り
 ま。あ。り。と。反。命。し。ま。あ。ん。を。首。級。の。甚。麼。と。向。の。つ。然。の。杜。四。郎。と。米。六。之。組
 路。伴。ひ。小。来。お。け。折。射。て。休。し。て。彼。身。ハ。怪。へ。幾。百。丈。あ。る。谷。底。へ。滾。落
 め。た。あ。の。故。小。他。等。兩。箇。の。首。ハ。の。捕。ら。せ。し。も。必。や。虽。小。碎。け。て。骨。も
 續。く。ま。あ。り。小。け。ん。別。小。仔。細。ひ。つ。と。と。稟。さ。ば。障。り。あ。る。べ。し。是。等。の
 お。と。小。掛。念。せ。と。く。影。を。躲。し。ぬ。や。よ。疾。々。と。い。そ。が。る。人。の。誠。小
 成。勝。通。能。盡。ぬ。詞。も。火。急。の。別。路。共。侶。小。身。を。起。て。折。く。後。小。繁。小。樹

殺伐を恣にする
奸佞四賢士を
擄捕まくだ



三十一

文樂堂藏

三十一

文樂堂藏

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

山崎

拉ひきの蔭かげより吐はきと揚あげ開ひらけ聲こゑ。訝あやし响こゝろひて夥おほく山やまも顔かほも可たるまじ。勢いきほ泰たい知ち量りょう成せい勝しょう通つう能のう。俱とも吐はき嗟あはれ驚おどろそ其その方かたを佐たすと見み久ひされハ頭あたまれ出い来きる緝と捕との頭あたま人ひと是こゝろ則すなはち別人べにんあらず曾そ根ね見み五ご郎らう平へい宗そう玄げん頭あたまハ鏡かがみ粉こな磨こみ鏡かがみ輪りん打うちせ。戰いくさ笠かさを戴かぶり。牙はハ勒りやく駐ち戰いくさ外がわ套た朱しゆ韃たの両りやう刀とう奇きめ。縹へい緋ひ純じゆん子の野の袴はかまを鷗う尻しりハ穿く做しよる山路さんじゆの峻げん岨せハ泰たい熟じゆくたる。望もち月づきの景あや駒こまハ鏡かがみ子こを掛かへ腰こしハち跨またり。角かく弓きう三さん羽うの征せい箭せん握にぎり。左右さゆうハ從したがふ其その隊たいの雜ざ兵へい三さん十じゆ餘じゆ名な彼か字じ六ろくと可た平へいを緊きんく結むす扭ねり。率しゆつ居ゐて愾さい雄ゆうの社しゃ伎ぎ每まい十じゆ捕と繩じゆ捍けん棒ぼう又また及およ各おの々々ハ打うち振あり。前後ぜんごの路ぢを立た空あけ漏もれ。とて捕と卷まる。當あた下げ宗そう玄げん聲せい高たか分ぶんハ。反はん賊ぞく勢せい泰たい知ち量りょう若わ們ら君きみ命いのちを兼かねる。敵てき方かたハ内うち心こゝろハ機き密みつを洩もれ。反はんのやあらんと豫よ思しひ。よもわれハ我又また守まもり上あて隊たい兵へい多おほく假かりしぬ。

つり迹あとを跟つひ。陟のぼり来きぬ。路ぢハ石いし見みぬ。若わ黨たう字じ六ろくと奴やつ隸れい可た平へいを生な捕とり。其その来き歴れいを責せ問とひ。我われ推おし量りょうハ多おほく違ちがひ。杜と四し郎らう采さい六ろくハ逃にげ脚あしの輪りんハさ。若わ們らハ山やまハ必かなず在あると思おもひ。峻げん岨せを戢とり。兎う来きて那な里りの茂も林りんの樹じゆ蔭かげより。其その為ためハ体ていを張はひ。若わ們ら果はて。或あるハ射いて捕とる。其その兩りやう敵てきハ幾いくの程ほどハ軟か通つう同どう。密みつ談だん數すう刻こくハ及および。反はん逆ぎやくハ。孰たし飲いんハ。天てん罰ばつ今いまハ脱だつる。路ぢハ。杜と四し郎らう采さい六ろくと俱ともハ馬ま前まへハ跪ひざまりて。繩じゆを受うけ。呼よび。勢せい泰たい知ち量りょう怒いかれ。堪たま。前まへ機き合あり。疾あり。君きみを惑まどふ。奸けん惡あく人にん賢けんを憎にくむ。才さいを媚めむ。舌したの劍けんハ人ひとを損しんふ。當あた家かハ毒どく不ふ忠ちゆうの本ほん性せい。人ひと皆みな是こゝろを知しる。或あるハ祿ろくの為ためハ口くちを鉅こ。或あるハ其その職しやくハ。あ。されハ守まもり。訴うす。あ。今いま這まり。及および。其その身みハ僥あり。あ。雜ざ兵へい。さ。ハ駈か催も。來きて君きみを非ひ道どうハ陷おれ。欲ほす。大だい江かう峯ほう張ちやう兩りやう。

才子の高嶋生不舊縁あり。出處来歴正し。是を敵の同者とのいふ所なり。其の罪死刑に當るを知らざる。今も緩しかり。君の爲に奸を鋤く。勢茶知量が忠義の心を。今その頭を敷き落さ。開里を退るといふ。果を宗玄眼を瞶し。之を兵毎思暗せる。網裏の四箇の罪人満ち。搦捕らざる。刺さる。下知小その隊の雜兵兼り。之を果を俱ふ。十を閃り。之を組んと。扱むを勢茶知量持。弓を撃。敵に伏つ。挑を。然しも。刺さる。半不成勝。通能の料ら。ぎける。再度の窮厄。今宗玄を見て。怨不堪。一言半句の回答。不違。あは。時宜。ね。八群立。競ふ。雜兵を當る。不儘。せて。投。蜚。を。白。打。の。精。妙。向。ふ。前。前。も。あ。る。宗。玄。不。組。ん。と。思。ふ。程。も。あ。る。曾。根。見。ハ。馬。上。不。弓。不。箭。刺。ふ。て。克。弯。固。り。て。彈。と。射。る。箭。局。狂。ふ。て。一。箇。の。雜。兵。項。を。射。り。て。付。れ

ける。既し。宗玄ハ。一の。箭。を。射。損。ね。て。反。て。右。方。を。傷。り。心。慌。そ。う。第二の。箭。を。刺。ん。と。思。ふ。程。も。あ。る。長。橋。倭。太。郎。勢。茶。ハ。競。ふ。緝。捕。の。雜。兵。を。中。了。不。儘。そ。て。散。せ。六。衆。口。嘔。叫。ぶ。の。重。て。蒐。る。者。も。あ。る。其。間。小。勢。茶。ハ。弓。箭。を。取。て。彈。と。射。る。那。時。速。く。窺。錯。つ。て。宗。玄。ハ。左。の。肩。尖。鹿。深。く。射。ら。れ。て。弓。箭。を。捨。つ。仰。及。て。馬。よ。り。墮。下。り。か。是。れ。駭。く。緝。捕。の。衆。兵。右。左。在。乱。噪。ぐ。を。威。勢。剛。さ。る。大。江。峰。張。象。船。知。量。共。侶。不。敵。の。捍。棒。曳。き。繰。り。息。を。も。糧。れ。を。擊。破。せ。ば。衆。兵。の。よ。く。度。を。失。ふ。て。或。ハ。深。谷。不。滾。落。て。死。活。も。知。ら。ざ。る。も。あり。そ。の。他。ハ。山。脚。へ。降。を。衝。て。落。て。身。を。傷。る。も。多。し。り。丹。が。中。不。猶。幸。不。辛。く。命。を。免。れ。て。當。日。城。内。へ。還。り。一。ハ。五。六。名。不。過。を。と。の。み。す。の。子。後。不。吹。え。け。り。是。よ。り。先。不。勢。茶。ハ。曾。根。見。宗。玄。を。射

て落して起んと奮く程もあらずせど起蒐り頭髻吉を扱て地上に
 楚と推伏て怒り聲高ゆふをれ宗玄若か奸悪今復敷き
 りふ小及び大江峯張両才子へ其名這里へ白ゆえ古入峯張
 先生の親族めて高嶋主小由縁あり出處來歴分明あり敵の
 間者といひ做して守を惑し其罪死刑に當りとも彼儘に
 して在るまづ猶幸小免れん小我門を疑ふてみづ跡を跟て
 来て搦捕も欲あり奸曲既小極れり我門素より不忠を存せ
 大江峯張両才子を救ふ守の御怨を情地小補する是則忠之美
 之然れども事の敗小及びて亦今さらせん樹る。祿を棄命を棄
 て君の為小奸を鋤く。勢茶が鯁美の刀尖思知るやと罵り責て腰
 短刀拔出る宗玄の項より吭を掛て馬然と刺を刀尖土中へ入

るまゝ鮮血濺と潰りて開が儘息へ絶ふけり浩處小象船等弥大
 江峯張両主僕へ逃る緝捕の衆兵を追捨てかり來り今この事の為
 体小主僕吐嗟と驚死て走近つ聲もひらぐ。なよ喘りある。長橋
 生宗玄奸虐ありといふも亦是守の使ありもや。そを我門の故を
 もて卒小撃果して小守等も罪免れかよけん。あの美甚廢と悔
 回ふを知量急小推禁めて小思るへ理りあるも愚意も長橋
 と異らむ宗玄守の御使とも行ふ所へ正路小あむ。然るを
 今撃果さむへ彼が為小征せりて俱小悪人の小死るん。あむ已
 あつをぬぎる而已といふ間小勢茶ハ刃の鮮血を推拭ふて開頭小
 牽居置れり。高嶋の若黨勾津字六と奴隸可平の索を所棄
 て嘆息あむ却りあむ。汝等も城内へ走り加りて我等が為小小父

小告よ。今日箕弥と共侶大江峯張を射て殺さざりて惜地極ひ
あは亦是君の御愆を補ひまらるる為らざるも。其事竟ふ合期せむ
曾根見宗玄小跟られて支勢を敵多小血戦まらる。射て宗玄を磔
まらる。只是一時の怨小儘して私の怨小報ふあらむ宗玄の佞人
之守を惑しなむ。奸虐既小極まり。今他をりも較むざるあらむ。
孰の時小悪を除ん我と箕弥が本意ある事ども君の仰小由るふ
あらねば俱小罪を免と加らる。あの故小自殺して身のあつ山の土ふる
りてん。箕弥も同ト意あるべし。我と箕弥の幸あらで父母早く世を
去りて胞兄弟もあ親族寡し。年来小父小後見せられて成長るもの
あつて兵法武藝何らととる。教を養し甲斐もあらで小父へ連
累せられん欲と思へる。身の後まも心苦し死涯りるれども今も

せん御あり。此の意を備小侍よ加し。とらひつ又短刀をもて鬚兵の
毛を前小取りてを鼻紙小巻籠て卒とて渡せ。知量も嗟嘆
小堪む俱小いふやう。我も亦幼稚の時より。高嶋大人小教育
せらとて今日小至りも其報恩の折もあ。忠義の本意も空
とある。身の薄命を争何せん。汝等宿所へ疾加りて高嶋大人
小言侍せよ。とらひつ小指を二三分許。唾所りの流る。鮮血と俱小
懐紙小裏て是を字六小遞與して又いふやう。汝我門西箇の爲小
大人小言侍致もとも。照据多の疑れん。長橋の鬚兵の毛も又我小指
も肉身あれば末期の像見と思つるべし。約莫今日の禍事ハ汝等の
知る所亦今さういふべし。及む。あつて。説示も。腰小吊た
る。禁籠より。高嶋家傳の仙丹を撮出さる。小指の疵小塗れば其血止り

て疼痛もあつても做らざるが像。當下長橋勢泰の成勝通能ふらち
 向ひて両才子是ま心の志の致たり。歎く他郷へ走りの我主君の四
 為ふ今奸悪を除くといふも。更ふ違命の罪を怕れて俱ふ他郷ふ七
 命せの忠も不忠といふまの。既ふ覚悟の極めなり。暖稟とといふも
 果を程遠くぬ千仞の谷へ投るが像。身を墜せば知量も亦後れどと
 俱ふ深谷へ陥りける。是れを驚く成勝通能又字六も可平も吐嗟とを
 りり呆れ惑ふて立て見居て見指観く。底最闇に千仞の谷へ落たる
 人を磨れば索の絶る吊桶ふ似たり。孰よりく是を極めん。唯弥陀
 仏弥陀仏と唱名の外ありりける。そが中ふ成勝通能の惘然とて嗟
 歎ふ勝を姑且して俱ふのやう。羨る哉長橋象船尚少年ふして烈
 氏の風あり。善ふ與るる。水の低ふ就くが如く。悪を憎むの頭の蜂を拂

ふふ似たり。難ふ臨みて苟も辭せど。身を殺してよく忠あり。在昔唐山
 漢楚の時彼韓信の路を誨し。蘆中入の美俠といふも。豈這西義士
 及んや惜むべし。といひて字六をを見たり。通能先のひけるや。汝等
 這里ふ在りても益あり。疾城内の還りも。高嶋主ふ注進せよ。言後と
 て告ぐもあつて彼人是非の境も惑ふて連係の罪を免れがけん。とて
 白紙と急せ成勝も俱ふのやう。長橋象船の今日の所行の忠義の為
 といひるが。原是我們の死を救ふあり。然るを彼西義士自身を殺して
 潔然終をり。示されふ我主僕俱ふの死を。這儘他郷へ走らる。我
 信も西のやう。欠るふ似られど。いふせん。昔里の親もあり。胞兄弟あり。孝
 の百行の本ふ。七亦唯是より重なる。今交遊の為ふの。死生を隨
 意做らざる。實ふ是等の故るを。高嶋主ふ知らねせん。いふの義を

傍より加へ。とられて字六可平の額を衝つ答さず。御意承りひひね嚮ふ
 後れて来る程曾根見主の撞見して情意もつをを捕捕せて這頭へ
 牽れる時へ生なき心地さうり。小各位の救れて故に甲斐も怒り曾
 根見主と衆兵と撃果され。膳長橋象船西郎君の這里の溪水
 小身を投る。是等の支の大変を早く主人の告さるあふ。後難測
 かさるべし。と思ひいども。各位の口先途を見果せしを退りる。主人の
 本意の違ふ似ず。進退谷りひひねと。いへ亦可平也。然容々々。とむら
 り小困して俱ふ立難るを成勝通能はあむぞ。开く亦益る。口誑へ
 汝等へ長橋象船の送言を。自馮れ。一霎時。這里小橋渡。とこと
 かに我們の上のあら安れ山を下りて他郷へ走らん。疾のまきや。と焦燥の字六
 可平解ふ由り。揉むをさう。身を起して。あらん。是非小及む。口誑意ふ

従ひをらん。おん別と。あを惜けと。といへ通能聲奇立て。开らあらん。え
 疾のたはのねん。と備立れば。字六可平。応をさう。故来。山路へ下りぬ。
 背影の見えども。さう。這方の主僕へ目送果て。憶と。嗟歎。あてりける。
 姑且して成勝へ通能と談さる。長橋象船。西義士。我們的死を救ひ
 一より。彼身を潔くせん。と。俱小溪谷。小身を投。小其亡骸。たも見る。さ
 多く。這儘小。山を下り。情義。両さう。恥さ。んや。能ぬ。ま。底を。探り
 て。索ねて。見ざる。誰何。と。や。といへ。通能。沈吟。して。然あり。古語。小。孝子。小。巖
 壁。の下。小。木。立。と。い。親胞。兄弟。の。為。小。も。小。大事。を。帯。さ。う。文遊。一
 時の。美。の。為。小。危。危。を。忘。る。好。か。る。所。為。あ。れ。小。宣。小。所。寔。小。所。以。の。藤。蔓
 小。小。携。り。下。ら。る。便宜。も。あ。ら。小。秋。底。の。深。さ。を。揣。り。て。見。て。ん。卒。と。む。り。小
 共。侶。小。岨。の。頭。小。立。寄。り。折。る。怪。む。小。谷。底。より。白。雲。忽。焉。と。起。立。て

這方へ靡くと見る程小贖兒小等死大鹿二頭四月の今もまの解ぬ
 角小各人を掛て跳騰りつ突然と見え来ると見る隨小主僕の向小掛る
 西首を振捨る暮地小土地の茅社の邊へゆ欵と思へ撥消如く忽地見え
 のりゆけ然成勝通能へ目今這奇異神妙小吐嗟とぞ驚避けて眼を定
 めて佐と見え六彼大鹿の角小掛りて深谷底より登り来ぬ其人は是別
 人あまも長橋倭太郎勢泰と象船算弥知量あれば這方の主僕へ怡
 悦不堪也あまも甚麼と立ちりて扶起さる欲さる小勢泰も知量
 も俱小溪水小濡まよせむ月小此の疵もあければ既小息絶これ成
 勝と通能へ撲傷の氣絶るんと猜して俱小師傳の覺ある白打の活を
 入れ然其術小答了勢泰知量云とむり小息出て忽地我小還りり
 共侶小身を起して先四下を得と見り又成勝と通能を見り齊一胆を

濱と抑茲の那里とぞ我門西首の千仞の谷へ落て死せりと思ひふ
 憂歎現歎然了ゆても大江峯張兩賢兄小救とて歎あろゆねと俱
 小訝る聲細やう小猶ほらと見かると成勝通能含笑てる下り
 長橋象船主心地正可小ありと歎和殿等鯉支心烈めて身を溪
 谷小放下きし時留了暇ありまふうち歎くのも術もある高嶋
 小もこまされ西首の伴當字六と可平由の暇を取らせて益々
 宿所へ返遣し却我門の和殿等の生死も知りも亡散を見も果をま
 て升か儘小他御へいんさるを非除千仞の溪底ありとも下りり
 便宜得欲と思ふ折りうらま様々々如此々々の奇異ありて谷の中より
 立升る白雲と共侶小贖兒小等死大鹿二頭和殿等を角小らり掛て谷
 より閃りと跳して主僕を致小振捨て撥消如く見え来ると見り神



夏山鹿角の

十六

夏山鹿角の



夏山の牡鹿角の
 とおぬ間よき枝の
 かへてのえおふけり
 玄同陳人

ふちよー

あし

夏山鹿角の

夏山鹿角の

助のあれがごとく我門西首の脚を勞せど和殿等輒く如の來て且再
 生の飲ひの憶ふふ和殿等人の勝れ。歟我心烈を憐めふ土地善神の
 擁護の飲七鹿山の名を。かごとくいま。寔の芽出しくと送代り小語
 を紹て言詳の説示共勢泰知量は果てをとりて夢の覺る如くいま
 各答所を知りぞ權且て共侶小跪の土地の身社の方ふらち向ひて合
 掌黙禱念下果て却勢泰がいつぞ。我門命運のまご竭を神と人とふ
 幫助られて死なざることを。這儘城内小還り参らば忠も不忠と
 証られて縛首をな勿らざる然れがごとく今日の事實を具小訴稟さ
 ざる俺小父之疑れて連累の罪を免さかごけん進退惟谷のぬと
 りべ知量も沈吟とて我門かの折溪底の岳小碎けて命終らば
 今の憂苦なるからん慈の神の祐けらして生て甲斐なき身の薄命

事の難美のいふまゝもあつねど事實を訴稟えんを阿容々々とか
 へ参らば漫小死地小就んもの。孰歎思慮ある者とならん高嶋大人の
 ことども我門が為小疑るとも彼字六可平が稟せしをものいひ輝と
 るべ連係せらるるべもあつねどを女々々云々と千遍思ふも今ハ甲
 斐なき。只速小他御へ避て時の至るを俟んもの。この勢泰點頭て开々
 理ある言あつ。我門の世間廣かむ。當國を除くの外。他御小親接知已
 の友あり。那里を投て身を措んや。このを成勝らちて而賢兄難を避て。
 他御小時を俟んとあふ安藝の治比小赴れ。我父大江弘元ハ物敷らぬ
 小名ふれども善小與。賢を需めて一藝ある者なり。父ハ養まるとの著す。
 且我兄少輔太郎音就二郎基綱。父小方らぬ志あり。一縁安知りぬ。已
 治比へ紹め共飲ひて留められん。他處を索るとか。この通能も俱ふのふら。

事の便更（ことびんぎ）のそのまゝ（そのまゝ）とて（とて）俺（おれ）兄（あに）十三屋（じゅうさんや）九四郎（くわじうらう）の浪（なみ）練（ね）名（な）たる（たる）俠（あき）者（しや）ゆ（ゆ）善（ぜん）小
 與（よ）と（と）死（し）を（を）言（い）辭（じ）せ（せ）も（も）生（な）平（へい）小（こ）弱（じやく）を（を）助（たす）け（け）強（つよ）を（を）拵（しな）ぐ（ぐ）下（した）高（たか）者（もの）を（を）父（ちち）へ（へ）和（わ）君（きみ）等（ら）
 先（ま）那（な）里（り）小（こ）赴（まゐ）り（り）て（て）我（わが）兄（あに）の（の）帮（たす）助（たす）を（を）借（か）り（り）て（て）水（みづ）路（ぢ）を（を）安（やす）藝（ぎ）入（い）渡（わ）り（り）ぬ（ぬ）路（ぢ）の（の）費（ひ）を（を）
 省（た）く（く）べ（べ）。あ（あ）れ（れ）も（も）九（く）四（し）郎（らう）の（の）當（あ）春（はる）安（やす）藝（ぎ）入（い）赴（まゐ）り（り）。と（と）豫（よ）め（め）られ（れ）。夏（なつ）も（も）あ（あ）れ（れ）。和（わ）
 君（きみ）等（ら）其（その）時（とき）小（こ）後（ご）れて（て）九（く）四（し）郎（らう）家（い）小（こ）在（あ）り（り）も（も）。乾（かわ）見（み）六（む）市（し）四（し）摠（とつ）あり（り）。開（ひら）か（か）單（だん）小（こ）
 必（かな）在（あ）らん（らん）彼（かれ）等（ら）も（も）亦（また）然（しか）る（る）者（もの）あ（あ）れ（れ）。事（こと）實（じつ）相（あ）計（けい）す（す）べ（べ）。あ（あ）の（の）美（み）小（こ）任（にん）せ（せ）ぬ（ぬ）か（か）。
 と（と）い（い）ふ（ふ）と（と）飲（の）み（み）勢（せい）泰（たい）知（ち）量（りやう）憶（い）を（を）俱（い）小（こ）額（がく）を（を）拍（た）て（て）開（ひら）き（き）幸（さい）甚（じん）。い（い）ふ（ふ）と（と）教（きやう）小（こ）
 馮（ほう）小（こ）ら（ら）ま（ま）く（く）欲（ほ）を（を）然（しか）り（り）と（と）て（て）這（こ）里（り）ま（ま）で（で）長（なが）詮（せん）談（だん）と（と）再（また）度（たび）の（の）追（お）隊（たい）の（の）來（き）ぬ（ぬ）小（こ）逢（あ）ひ（ひ）。
 後（ご）悔（かい）其（その）罪（つみ）小（こ）達（た）か（か）は（は）け（け）ん（ん）先（ま）這（こ）山（さん）を（を）下（くだ）り（り）て（て）と（と）い（い）ふ（ふ）小（こ）主（しゆ）僕（ぼく）の（の）諾（だく）を（を）ひ（ひ）て（て）卒（す）を（を）
 俱（い）小（こ）身（み）を（を）起（た）し（し）。土（つち）地（ぢ）の（の）茅（ちやう）社（しゃ）の（の）御（ご）前（ぜん）小（こ）跪（か）ひ（ひ）。合（あ）掌（てい）と（と）て（て）去（さ）向（かう）の（の）無（む）異（い）を（を）祈（いの）り（り）け（け）る（る）。
 新局玉石童子訓卷之十七終

